

科目名	放送メディア教育特論	担当教員	岡元 隆治
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p>【授業概要】</p> <p>現在、他メディアを凌駕するパワーの放送メディアについて、理解と知識を深めるのが本講座の目標。まず、放送メディアの特性を多角的に分析し、その優位性・危険性・脆さなど解明する。同時に、放送メディアの威力のカギを握る、映像表現の危険性と弱点についても焦点を当てる。</p> <p>また、視聴率やネットワークなど、放送業界の仕組みを理解するのに不可欠な基礎知識も教える。更に、「放送は何を伝えたか」をテーマに、日本の戦後史と重ねて60年のテレビの歴史を取り上げて、放送メディアへの理解を深める。</p> <p>メディアリテラシーには、一定の基礎知識と理解力が前提となる。本講座は、リテラシーに足る知識の習得を第一とし、そのうえで実例を挙げてメディアリテラシーを実践していく。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放送メディアの特性を多角的に理解する。 2. 放送業界の基礎知識を取得する。 3. 放送メディアの歴史と戦後史を学ぶ。 4. メディアリテラシーの実践をする。 			
<p>【授業計画】</p> <p>まず、15回の授業を通じて放送メディアの基本を学習する。授業は、下記の5項目に大別し、各項目の冒頭で、課題や重点ポイントを学生に示していく。理解を深めるために、各回講座でキーワードが示され、その言葉を検索することで知識量を増やしていく。</p> <p>スクーリングではメディアリテラシーとテレビジャーナリズムの問題点などを議論し、受講後に4000字程度のレポートを提出する。そのうえで、科目習得試験を実施する。</p> <p>第1回～第5回：放送メディアの特性 「マスメディアの威力」「生中継されたテロ」「衝撃映像、パワーと脆さ」「テレビ視聴の変遷」「テレビが世界を変えた」</p> <p>第6回～第8回：放送局の基礎知識 「放送法とネットワーク」「視聴率の功罪」「テレビ局の仕組みと収益構造」</p> <p>第9回～第10回：放送メディアの戦後史・日本の一番長い日 「玉音放送をめぐる戦い」「初めて聞いた天皇の肉声」</p> <p>第11回～第13回：放送メディアの戦後史・テレビは何を伝えたか 「テレビの始まりとプロレス人気」「高度成長とホームドラマ」 「情報番組とバラエティー番組の時代」</p> <p>第14回～第15回：実践・メディアリテラシー 「メディアリテラシーとは？」「リテラシーを実践する」</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。</p>			

【教科書】

「メディアと日本人」 岩波新書 ISBN978-4-00-431298-7

「テレビ視聴の50年」 NHK 出版 ISBN4-14-007213-X

「日本のいちばん長い日」 文春文庫 ISBN9784167483159

「テレビの教科書」 PHP 新書 ISBN4-569-62786-2

【参考図書】